

スマートエナジーマネージャーとして、 FDKグループミッションを実現し、社会に貢献する

社会とともに歩むFDKグループ

FDKグループは、お客様にご満足いただける電池、電子製品の開発・供給により、様々な形で社会に貢献できる「エネルギーマネジメントメーカー」として、その時代ごとに求められる新しい価値を追求しながら、社会とともに発展してきました。

近年、気候変動、気象災害の激甚化などの環境問題や、都市化・高齢化あるいは人権・人口動態などの社会課題が顕在化するなか、国連での「持続可能な開発目標(SDGs)」採択や投資市場におけるESG(環境・社会・ガバナンス)投資への関心の高まりなど、企業のサステナビリティに対する取り組みへの期待が急速に高まっています。また、AI、ロボティクス、IoTなどのデジタル技術の急速な進化によって、かつてないほどの急激な社会変革が起きており、そのなかでいかに豊かな市民生活を実現していくかが企業の取り組むべき大きな課題となっていると考えています。

このように複雑かつ急激な変革のなか、社会的課題を解決するイノベーションを求める動きが活発化しています。FDKは2017年、従来の製品供給にサービスを加えた「スマートエナジーマネージャー」という新たな目指す姿を掲げました。これまで培ってきた電池技術と回路技術およびパワーエレクトロニクス技術を結集させ、電気エネルギーを効率的に利用する技術でお客様の課題を解決するビジネスを推進してまいります。

現代社会において、電気エネルギーは家庭から産業に至るまで、なくてはならないインフラです。加えて、近年の情報産業において、IoT、モビリティといったモノと情報が一体化した情報インフラの進化に対しても適切な電気エネルギーの供給は欠かせません。すでに顕在化している課題はもちろんのこと、今後の技術進展に伴う課題を先取りしてお客様に提起・解決支援に関わることで、その先にある豊かな社会の発展に貢献していくことができるものと考えています。

「One FDK」での技術力を基盤とした CSR推進で社会に貢献する

FDKグループにおけるCSRの推進は、企業市民として果たすべき責任を確実に実行するだけでなく、より積極的に社会の課題解決に携わり、貢献していくことを目指しています。「電気エネルギーを効率的に利用する技術でグローバルに社会に貢献する」というグループの創業以来のミッショ

ンの実現に向けて「One FDKで価値を提供する」ことを繰り返し社内で確認し、全員参加での取り組みに努めています。そして新たに注力するテクノロジー領域としてIoT、モビリティ、5G・再生可能エネルギー蓄電といった社会インフラの3領域に着目し、電池・電子の技術力を「One FDK」で結集し、経済・環境・社会の各側面を網羅したCSR活動を推進し、それぞれの課題解決に貢献してまいります。

CSR推進に向けた一人ひとりの意識醸成

昨年の社長就任以来、私自身が多くのお客様や株主様、グループ各拠点の従業員と対話を重ねてきたなかで、FDKに対して大きな期待を持たれていること、またFDKはその期待に応えるだけの力を十分蓄えていることを実感しています。

一方、事業の推進にあたって、一人ひとりの従業員の意識変革も重要であることを感じました。「One FDKで価値を提供する」とは、製品・技術面にとどまらず、従業員全員が問題意識をしっかりと共有し、それぞれの力をいかに発揮して、お客様に価値を提供できる体制を構えるという基本姿勢も表しています。多様性を育み、結果と過程を適切に評価し、ネガティブなことも含めて議論しあえるよりオープンな企業風土を構築してまいります。

7つの重点課題を着実に進展

CSRの具体的な推進にあたっては、PDCAサイクルを回して着実に目標を達成していくことが欠かせません。「ステークホルダーとの対話と協力」「法の遵守」「コーポレート・ガバナンスの強化」については、遅滞なく対応を図っていくことが重要となります。2017年度においても、この3点について堅実に取り組み、十分な成果を上げることができました。

「地球環境保全への対応」「多様性の受容」「地球と社会に貢献する人材の育成」の3点については、社会情勢の変化もあり、常に中身を検証・改善を図っていくことも必要です。当初計画の達成に満足することなく、社会からの要請に対して、より高みを目指した取り組みを進めてまいります。また、「様々な形で社会に貢献する電池、電子製品の供給」を継続的に実現することにより、ステークホルダーの皆様のご期待に応え、企業価値をより高めてまいります。

グローバルな社会課題への対応

グローバルに社会と経済が連動している今日、FDKグループ内の課題に対しても、内向きの視点だけで解決を図ることは現実的ではありません。FDKグループの取り組みは、「電気エネルギー」という世界共通の社会基盤に関わるものであることから、世界の電気エネルギー関連技術の開発および利用の動向に注視し、さらには先取りするといった取り組みが重要です。またFDKグループのビジネス、事業拠点、従業員は欧米・アジアを中心に広く海外に展開しており、各国・地域への、そしてそれをつないだグローバルな社会課題の解決への貢献や要請への対応に取り組みます。国連が世界のあらゆる人々や社会が発展し、地球環境が持続可能であるために達成すべき目標として提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」への貢献も、そのグローバルな活動の一つとらえ社内での啓発を進めるとともに、FDKグループの活動の影響について重点課題の結びつきを含めて検証し、SDGsの17の目標のうち、7:エネルギーをみんなにそしてクリーンに、9:産業と技術革新の基盤をつくろう、12:つくる責任つかう責任、13:気候変動に具体的な対策を、の4つをFDKグループが注力する目標として定めました。

ステークホルダーの皆様へお願い

CSRについては、近年様々な観点から研究も進み、社会からの要請も多様なものが求められるようになってきました。FDKグループは、富士通グループの一員として、一人ひとりの従業員の意識から社会への影響まで、広い視点を持ち、「電気エネルギーを効率的に利用する技術でグローバルに社会に貢献する“スマートエナジーマネージャー”を目指す」というミッションのもと、今後もCSR活動を積極的に進めていく所存です。

本レポートで、CSR活動に関するFDKグループの取り組みについてご理解を賜われればと存じますが、今後のFDKグループの取り組みのため、ステークホルダーの皆様からの忌憚ない、ご評価、ご意見を賜りますようお願い申し上げます。

2018年9月

代表取締役社長

大橋 洋一

